

基本指針策定検討経過

【開催経過】

| 会議名 | 日時・場所 | 内容 |
|---|-----------------------------|------------------------------|
| 文化力創造懇話会「第6回文化力による京都活性化研究会」「第6回次世代の文化創造研究会」合同開催 | 平成17年10月17日(月) 平安会館 | 条例制定を受けての基本指針等の策定について |
| 第1回基本指針策定ワーキング会議 | 平成17年11月29日(火) 京都府公館 | 基本指針策定スケジュールについて 基本指針について |
| 第2回基本指針策定ワーキング会議 | 平成18年1月25日(水) 京都府公館 | 基本指針の基本的方向について |
| 文化力創造懇話会「第7回文化力による京都活性化研究会」「第7回次世代の文化創造研究会」合同開催 | 平成18年3月29日(火) 平安会館 | 基本指針策定検討状況と今後のスケジュールについて |
| 第3回基本指針策定ワーキング会議 | 平成18年5月25日(木) 職員福利厚生センター | 基本指針の基本的施策について |
| 第4回基本指針策定ワーキング会議 | 平成18年7月24日(月) 職員福利厚生センター | 推進体制について 基本指針中間案について |
| 文化力創造懇話会「第8回文化力による京都活性化研究会」「第8回次世代の文化創造研究会」合同開催 | 平成18年8月31日(木) 平安会館 | 基本指針中間案及び今後のスケジュールについて |

【主な委員意見等】

文化芸術には3つの力がある。一つは「固有力」、つまり、文化芸術そのものが価値のあるもので、価値あるものには力がある。二つ目は「文化が社会関係資本に関係していく力」であり、これは条例がいう文化力の大事な力だと考える。3つ目は「強制力」であり、文化芸術は人をあおり立てる力がある。これらの力を念頭に置くと、文化力の整理がしやすい。

基本指針を考えていくときは、具体的施策を思い切って盛り込んでいかないと意味がない。どういう施策をすることによって京都を活性化していけるのかを記載する必要がある。

文化を経済と結びつけることは必ずしも文化を貶めている、卑しめていることにはならない。文化本来が持つ価値は尊重されるべきだが、その一方で、文化が経済的な効果を引き起こしていく、地域を活性化につなげるなど、周りに派生していく力も文化の持っている豊かな力の一つである。

文化は一定の力を持たないと文化でない。それは人の暮らしを幸せにする力。そういう意味で、経済的側面は大きな意味を持つ。

京都の文化を考えると、日本や世界の文化を視野に入れることが必要。また、行政は従来ボトムアップで全体の底上げを図ってきたが、社会情勢の変化に伴い見直すことも必要で、プルトップの視点が必要である。

文化施策は今までのハード重視からソフトへと転換していくが、施策の対象がプロなのかアマチュアなのか、人なのか地域なのかという対象を定めるにあたり、難しい部分が多くある。

今、地域コミュニティが崩壊しており、若い人の参加が減っている。一方で、価値コミュニティ、すなわち何か同じものにこだわっている人の集まりが重要になってきており、文化コミュニティ、文化による地域再生の考え方を期待したい。